

**2009 年 IEEE Kansai Section
総会資料**

**2009 年 2 月 24 日
IEEE Kansai Section**

總會資料目次

Program

- . 2009 年關西支部役員・理事 p.2
- . 2009 年 Kansai Chapter 役員 p.5
- . 2008 年關西支部活動報告 p.7
- . 關西支部會員数 p.18
- . 2009 年關西支部活動計画 p.20
- . 2008 年關西支部會計報告 p.26
- . 2009 年關西支部予算案 p.27
- . 受賞者 p.28
- . 關西支部 Bylaws p.29

2009 年IEEE Kansai Section総会

- 1 . 日時 : 2009 年 2 月 24 日 (火) 15 時 00 分 ~ 17 時 30 分
- 2 . 場所 : 京大会館 2 階 210 号室
606-8305 京都市左京区吉田河原町 15-9
- 3 . 総会スケジュール
 - 1 . 支部長挨拶
 - 2 . 役員・理事紹介
 - 3 . 2008 年活動報告および 2009 年事業計画
 - 4 . 2008 年会計報告および 2009 年予算案承認
 - 5 . Chapter 役員および活動紹介
 - 6 . IEEE Kansai Section GOLD Award 授賞式
 - 7 . IEEE Kansai Section 学生研究奨励賞授賞式
 - 8 . IEEE Kansai Section メダル授賞式
<休憩>
 - 9 . IEEE Kansai Section 新 Fellow 紹介及びスピーチ
 - 10 . 閉会の挨拶

2009 年関西支部役員・理事

Section Officers

Chair:	中村 行宏	(立命館大学)
Vice Chair:	櫛木 好明	(パナソニック)
Secretary/Treasurer:	上田 大助	(パナソニック)

理事

MDC Chair:	山内 寛紀	(立命館大学)
NC Chair:	片桐 滋	(同志社大学)
SAC Chair:	尾上 孝雄	(大阪大学)
TPC Chair:	山田 武士	(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)
AC Chair:	菊野 亨	(大阪大学)
COC Chair:	山本 幹	(関西大学)

理事 (Past Officers, Past Committee Chairs)

Past Chair:	松本 紘	(京都大学)
Past Vice Chair:	千葉 徹	(シャープ)
Past Secretary/Treasurer:	岩瀬 哲雄	(シャープ)
Past TPC Chair	三好 正人	(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)
Past Chair:	白川 功	(兵庫県立大学)
Past Chair:	小山 正樹	(奈良先端科学技術大学院大学)

Committee Officers

a. Membership Development Committee :

Chair :	山内 寛紀	(立命館大学)
Secretary :	吉川 雅弥	(名城大学)
Member :	平松 達夫	(三洋電機)
	坂手 勇次	(オムロン)
	赤木 永治	(住友電気工業)
	勝山 豊	(大阪府大)
	大仲 清司	(パナソニック)
	村松 純	(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)
	宮本 雅之	(シャープ)
	林 栄治	(関西電力)
	太田 有三	(神戸大学)
	酒井 英昭	(京都大学)
	田邊 信二	(三菱電機)
	辰巳 昭治	(大阪市立大学)
	有本 和民	(ルネサステクノロジ)
	木村 啓明	(ローム)

棚橋 成夫 (京セラ)
鈴木 龍太郎 (ATR)
稲井 誠 (村田製作所)

b. Nominations Committee :

Chair: 片桐 滋 (同志社大学)
Member: 和田 修 (神戸大学)
山本 裕 (京都大学)
池田 雅夫 (大阪大学)
植村 俊亮 (奈良先端科学技術大学院大学)

c. Student Activities Committee :

Chair: 尾上 孝雄 (大阪大学)
Member: 宮本 伸一 (大阪大学)
久門 尚史 (京都大学)
永田 真 (神戸大学)
芳賀 博英 (同志社大学)
井上 美智子 (奈良先端科学技術大学院大学)
小橋 昌司 (兵庫県立大学)
山崎 勝弘 (立命館大学)
梶川 嘉延 (関西大学)

d. Technical Program Committee :

Chair : 山田 武士 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所)
Vice-chair : 廣安 知之 (同志社大学)
Secretary : 中谷 智広 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所)

e. Awards Committee :

Chair : 菊野 亨 (大阪大学)
Member : 朝香 卓也 (京都大学)
飯田 元 (奈良先端科学技術大学院大学)
石浦 菜岐佐 (関西学院大学)
太田 能 (神戸大学)
太田 正哉 (大阪府立大学)
大橋 正治 (大阪府立大学)
岡 育生 (大阪市立大学)
楠本 真二 (大阪大学)
黒江 康明 (京都工芸繊維大学)
近藤 晴房 (三菱電機)
榎木 哲夫 (京都大学)
野口 拓 (立命館大学)
棟安 実治 (関西大学)
山田 晃久 (シャープ)

f. Chapter Operations Committee :

Chair:	山本 幹	(関西大学)
Member	浅田 稔	(大阪大学)
	粟井 郁雄	(龍谷大学)
	池田 雅夫	(大阪大学)
	石浦 菜岐佐	(関西学院大学)
	石尾 秀樹	(大阪工業大学)
	大村 泰久	(関西大学)
	小川 晃一	(パナソニック)
	野田 進	(京都大学)
	本原 章	(パナソニック)
	山本 誠一	(同志社大学)
	吉本 雅彦	(神戸大学)

2009 年 Kansai Chapter 役員

EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter :

Chair:	大村 泰久	(関西大学)
Vice Chair:	高橋 明	(シャープ)
Secretary:	廣木 彰	(京都工芸繊維大学)
Treasurer:	小瀧 浩	(シャープ)

SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter :

Chair:	吉本 雅彦	(神戸大学)
Vice Chair:	飯塚 邦彦	(シャープ)
Secretary:	川口 博	(神戸大学)
Treasurer:	中島 雅美	(ルネサステクノロジ)

CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter :

Chair:	石浦 菜岐佐	(関西学院大学)
Vice Chair:	潮 俊光	(大阪大学)
Secretary:	一宮 敬弘	(パナソニック)
Treasurer:	井上 馨	(同志社大学)

APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter :

Chair:	小川 晃一	(パナソニック)
Vice Chair:	真鍋 武嗣	(大阪府立大学)
Secretary:	出口 博之	(同志社大学)
Treasurer:	塩見 英久	(大阪大学)

COMS (Communications Society) Kansai Chapter :

Chair:	石尾 秀樹	(大阪工業大学)
Vice Chair:	熊澤 宏之	(三菱電機)
Secretary/Treasurer:	岡田 実	(奈良先端科学技術大学院大学)

CS (Computer Society) Kansai Chapter :

Chair:	本原 章	(パナソニック)
Vice Chair:	越智 裕之	(京都大学)
Secretary:	安田 岳雄	(日本アイ・ビー・エム)
Treasurer:	中島 雅逸	(パナソニック)

MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter :

Chair:	粟井 郁雄	(龍谷大学)
Vice Chair:	石川 容平	(村田製作所)
Secretary:	上田 哲也	(京都工芸繊維大学)
Treasurer:	河合 正	(兵庫県立大学)

LEOS (Laser and Electro-Optics Society) Kansai Chapter :

Chair:	野田 進	(京都大学)
Vice Chair:	伊東 一良	(大阪大学)
Secretary:	杉立 厚志	(三菱電機)
Treasurer:	加藤 友章	(日本電気)

SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter :

Chair:	山本 誠一	(同志社大学)
Vice Chair:	榎並 和雅	(情報通信研究機構)
Vice Chair:	中村 篤	(NTT コミュニケーション科学基礎研究所)
Secretary/Treasurer:	南條 浩輝	(龍谷大学)

CES (Consumer Electronics Society) Kansai Chapter :

Chair:	長谷 智弘	(龍谷大学)
Vice Chair:	(調整中)	
Secretary:	(調整中)	
Treasurer:	(調整中)	

2008 年 活動報告

1. 総会

2008 年 2 月 28 日 (火) に京大会館 101 号室において、2008 年総会を開催した。
GOLD Award 授賞式、学生研究奨励賞授賞式、2008 年新 Fellow 2 名 (Fellow 昇格者
は計 3 名) による記念講演等を実施した。 参加者：42 名

2. 理事会

- 第 1 回理事会 1 月 24 日 京大会館 出席者：8 名
・ 2008 年総会について ・ WIE 活動について
- 第 2 回理事会 2 月 28 日 京大会館 出席者：8 名
・ 2008 年総会について ・ Region 10 Meeting 2008 参加報告
- 第 3 回理事会 4 月 28 日 京大会館 出席者：9 名
・ Japan Council 理事会報告 ・ 次期役員選出について
- 第 4 回理事会 7 月 8 日 京大会館 出席者：13 名
・ 次期役員選出について ・ Chapter Operations Committee 報告
・ Section Congress 2008 について
- 第 5 回理事会 9 月 16 日 京大会館 出席者：7 名
・ 次期役員選出について ・ WIE 活動について
・ Japan Council 理事会報告 ・ 会計中間報告
・ 各 Committee 活動状況報告 ・ GOLD 賞、学生研究奨励賞について
- 第 6 回理事会 12 月 22 日 京大会館 出席者：17 名
・ Japan Council 理事会報告 ・ 2008 活動報告/2009 活動計画について
・ Gold Award の審査について ・ 学生研究奨励賞の審査について
・ 関西支部メダルの授与について ・ 2009 新 Fellow の報告について

3. 技術講演会

Technical Program Committee の企画により以下の関西支部主催講演会を実施した。

・ 関西支部主催第 46 回技術講演会

日時：2008 年 1 月 25 日 (金) 15:00~17:00 (参加者：62 名)
場所：ガーデンシティクラブ大阪
題目：無線通信技術の最新動向
講演者：渡辺 克也氏(総務省 総合通信局 移動通信課長)
尾上 誠蔵氏 (NTT ドコモ 無線アクセス開発部長)

・ 関西支部主催第 47 回技術講演会

日時：2008 年 1 月 28 日(金) 13:30~17:00 (参加者：44 名)
場所：京都大学百周年時計台記念館
題目：IEEE Computer Society Kansai Chapter 設立記念講演会
講演者：富田 眞治 教授 (京都大学大学院情報学研究科)

Prof. Nikil Dutt(Center for Embedded Computer Systems, UC Irvine)

・ 関西支部主催第 48 回技術講演会

日時：2008 年 3 月 26 日（水） 15：00～17:00 （参加者：52 名）

場所：大阪新阪急ホテル

題目：音声生成とパターン認識

講演者：正木 信夫 氏

(ATR-Promotions 脳活動イメージングセンタ事業部部長)

片桐 滋 教授 (同志社大学工学部情報システムデザイン学科)

・ 関西支部主催第 49 回技術講演会

日時：2008 年 5 月 15 日（木） 15：00～16:30 （参加者：133 名）

場所：大阪新阪急ホテル

題目：高度情報通信社会を目指して

講演者：宮原 秀夫氏(独立行政法人 情報通信研究機構 理事長)

・ 関西支部主催第 50 回技術講演会

日時：2008 年 9 月 8 日（月） 16：30～18：30 （参加者 35 名）

場所：NTT 京阪奈ビル (NTT コミュニケーション科学基礎研究所)

題目：Synchronization of Chaos in Lasers and Neural Systems

講演者：Prof. Ingo Fischer

(Professor, School of Engineering and Physical Sciences, Heriot-Watt University, U.K.)

Dr. Claudio Mirasso

(Assistant Professor, Instituto de Fisica Interdisciplinar y Sistemas Complejos, Universitat de les Illes Balears, Spain)

Dr. Michael Breakspear

(Associate Professor, School of Psychiatry, University of New South Wales, Australia)

・ 関西支部主催第 51 回技術講演会

日時：2008 年 10 月 31 日（金） 16:00～17:00 （参加者 20 名）

場所：兵庫県立大学大学院・応用情報科学研究科

題目：新しい国際標準 ISO 8000 のめざすもの

講演者：Dr. Timothy M. King

(Convener of ISO/TC184/SC4/WG13 (Industrial Data Quality)

Head of the UK Delegation to ISO/TC184/SC4 (Industrial Data))

4 . 各 Committee 活動

a. Membership Development Committee

本年度も Senior Member への Upgrade を推進することで、会員に各機関での IEEE 活動を広く周知し、それによって新会員を増やすことを最重点に活動を行った。また、新たな取り組みとして、MDC 委員会に参加する機関を増やす取り組みを行った。結果として、

(1) 2008 年末の会員数は、昨年末の会員数 2085 名を越え、2108 名となった。

(2) 昨年と同様に Student Activity Committee との連携を強めて学生会員の増強をはかった。

(3) 新 Senior Member へ授与する「関西支部メダル」の周知に努め、Members に Senior Member への Upgrade を各委員を通じて推奨した。支部のホームページ内でも Upgrade 申請に必要な申請書の記入例を公開し、Upgrade 申請を行いやすい環境を整えた。

b. Nominations Committee

(1) 昨年と同様に、支部役員の方々と連携をとり、Senior Member の拡大をはじめとする、正会員や学生会員の拡大活動を行った。

(2) 2010 年 Fellow Nomination に関して、関西支部内の現 Fellow、Life Fellow 72 名 (E-mail アドレスの判明している方々) に対し、新 Fellow (有資格者 109 名) の推薦を依頼し、IEEE 関西支部からの推薦者を決定することとした。この結果、5 名の候補者の推薦があり、この方々に手続き情報をお送りした。次に関西支部からの Fellow 推薦処理に入る予定。

(3) 2009 年 Fellow に関して、関西支部会員の中から門田 道雄氏((株)村田製作所)と支部推薦 4 名のうち田村 進一氏(大阪大学)の 2 名が新 Fellow に昇格した。

c. Student Activities Committee

SAC 委員会では、昨年に引き続き、学生会員の増強、学生会員の活動支援、等の活動を行ってきた。

(1) 現存 5 大学 (大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学) の Student Branch を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、Student Branch 間の情報交換の促進、等の活動を行った。

(2) Student Branch による自主的な活動としては、昨年までと同様 5 大学合同で関西 Section 学生支部交流会を企画、開催した。本年は 12 月に兵庫県立大学にて開催予定である。立命館大学 IEEE Student Branch では、例年開催している English Presentation Competition を 10 月 10 日に開催し、優秀発表者に IEEE 関西支部 Student Activities Committee から表彰状を授与した。

(3) Region 10 Student Congress 2008 (1 月 28 日 ~ 30 日、インド・マドラス) に 3 名の学生を派遣した。

(4) 10 月 4 日に慶応大学において開催された IEEE 学生ブランチリーダーシップトレーニングワークショップに 10 名の学生を派遣した。

(5) Membership Development Committee と Student Activities Committee と合同で委員会を開催 (4 月、12 月) 連携して会員の増強、活動支援、等の活動を行った。

(6) Award Committee と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。

d. Technical Program Committee

	日付	場所	講演者	参加者数 (IEEE 会員参加者)	共催・協賛組織名
第 46 回	2008 年 1 月 25 日	ガーデンシティ クラブ大阪	渡辺 克也 様 (総務省 総合通信局 移動通信課長) 尾上 誠蔵 様 ((株) NTT ドコモ無線アクセス開発 部長)	62(14)	AC・Net(情報通信技 術研究交流会), (財)近畿移動無線セ ンター
第 47 回	2008 年 1 月 28 日	京都大学百周年 時計台記念館	富田 眞治 様 (京都大学情報学研究科 教授) Prof. Nikil Dutt (Center for Embedded Computer Systems, UC Irvine)	44(23)	IEEE Computer Society Kansai Chapter
第 48 回	2008 年 3 月 26 日	大阪新阪急ホテル	正木 信夫 様 (株式会社 ATR-Promotions 脳活動イ メージングセンタ事業部 部長) 片桐 滋 様 (同志社大学工学部 情報システムデザイン学科)	52(20)	AC・Net(情報通信 技術研究交流会), 兵庫県先端情報 通信技術推進会議
第 49 回	2008 年 5 月 15 日	大阪新阪急ホテル	宮原 秀夫 様 (独立行政法人 情報通信研究機構 理 事長)	133(20)	AC・Net(情報通信 技術研究交流会), けいはんな情報通信 オープンラボ研究推 進協議会
第 50 回	2008 年 9 月 8 日	NTT コミュニケーション科学 基礎研究所	Prof. Ingo Fischer (Professor, School of Engineering and Physical Sciences, Heriot-Watt University, U.K.) Dr. Claudio Mirasso (Assistant Professor, Instituto de Fisica Interdisciplinar y Sistemas Complejos, Universitat de les Illes Balears, Spain) Dr. Michael Breakspear (Associate Professor, School of Psychiatry, University of New South Wales, Australia)	35(15)	NTT 京阪奈ビル(NTT コミュニケーション 科学基礎研究所)
第 51 回	2008 年 10 月 31 日	兵庫県立大学大学院 応用情報科学研究科	Dr. Timothy M. KING Convener of ISO/TC184/SC4/WG13 (Industrial Data Quality) Head of the UK Delegation to ISO/TC184/SC4 (Industrial Data)	20(4)	兵庫県立大学

e. Awards Committee

2007年に引き続き2008年「IEEE Kansai Section GOLD Award」の募集・選定の作業を継続して若手会員の増強を図った。ただし、今年から企業の若手技術者への門戸を広げる目的で対象カテゴリを拡大する応募要領の改訂を実施し、ニューズレターおよび関西支部インターネットを通じて公募を行った。当委員会による選定の後、受賞者2名を支部理事会(12/22開催)で決定した。なお、2008年GOLD Awardの表彰楯は、Japan CouncilのSection支援費よりご支援頂き作成を行った。

また、2008年「IEEE関西支部学生研究奨励賞」の審査を、今年度も継続してSACと合同で審査委員会を設立して行った。学生研究奨励賞についても今年から応募資格

を変更拡大して募集を行なった。受賞者12名は支部理事会(12/22開催)で決定した。なお、2008年関西支部学生研究奨励賞についても、Japan CouncilのSection支援費より、賞状作成費ならびに副賞のご支援を頂いた。

2008年GOLD賞ならびに関西支部学生研究奨励賞については、2009年2月の支部総会において授与する予定である。

f. Chapter Operations Committee

2006年度の関西支部理事会において、100名以上の会員をもつソサイエティについては是非Chapterを設立頂きたい、また50名以上の会員をもつソサイエティについては実現可能であればChapterを設立頂きたい、という方向が決定した。この趣旨に則り、2006年にChapter Promotion Committeeを設立し、それ以後以下のように、6Chapter(2007年は2つ新設)が新設された。Electron Device, Solid-State Circuits, Circuits and Systemsの3つの新設Chapterとあわせ、関西支部は現時点で9つのChapterを擁している。

ソサイエティ	略称	設立時期
Antennas and Propagation	AP-03	2006年12月
Computer	C-16	2006年12月
Microwave Theory and Techniques	MTT-17	2006年12月
Communications	COM-19	2006年12月
Lasers and Electro-Optics	LEO-36	2007年4月
Signal Processing	SP-01	2007年12月

昨年度からChapter Operations Committeeと名称変更し、その役割を新しいChapter設立支援のみならず、既設Chapterの活動支援も含むものとしている。今年度は、これまでの活動内容である、Chapterへの提出情報の提供、活動が低いChapterの活性化などを、引き続き行った。

5 . Kansai Chapter 活動報告

a . EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

5月22-23日の二日間にわたってIEEE EDS 関西チャプター主催の電子デバイス国際会議である”2008 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (2008 IMFEDK)”を大阪大学中之島センターにて開催した。学生や若手研究者を中心に141名の参加を頂き、3件の基調講演に続いて、4件の招待講演と8件の一般講演、32件のポスターセッション(ショートプレゼンテーション発表付き)を行なった。基調講演は、大橋弘通氏(産総研)にパワーエレクトロニクスの将来について、松井俊浩氏(産総研)にロボットのリアルタイム処理に関して、門勇一氏(日本電信電話)にはサブTHzの応用に関して講演を頂いた。本会議に先立ってパワーデバイスにフォーカスしたTutorial講演会を行い、若手エンジニアや多数の学生参加を頂いた。

技術講演会としてはすでに定例となった関西コロキウム電子デバイスワークショップを10月17日に関西大学100周年記念館にて開催した。当日40名の関西在住の研究者の参加を頂き、国際レベルの研究成果を日本語にて発表して頂き、活発な討

論が行われた。また、1月26日に大阪大学中之島センターにて2007 IEDM 報告会を開催し、先端のデバイス・プロセス動向の共有化を行い、議論を行なった。

この他、本年度開催された他機関主催の国際学会、研究会に協賛するとともに、EDS News Letter に活動成果を投稿し、1月、4月、7月各号に記事を掲載された。

b . SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

2008年7月8日に京都で、2008年12月2日に京都でSSCS技術講演会を主催した。7月8日は「VLSI Circuits Symposium 報告会」として、内山邦男氏(日立)他6名の2008年のSymposium発表者を招き、発表内容をもとに講演をいただいた。12月2日は中島 雅逸氏(パナソニック)と川口 博准教授(神戸大学)の2名の講演者を招いて、「低消費電力設計技術」に関する技術講演会を主催した。それぞれの技術講演会では最新技術情報を提供した。7月8日の講演会では46名、12月2日の講演会では35名の参加者を集めて活発な質疑応答が行われた。なお、技術講演会の詳細は下記のURLに掲載している。

<http://www.ieee.se.ritsumeai.ac.jp/sscs/>

この他、6月に開催されたVDECデザイナーフォーラムに協賛、7月に開催されたICDサマースクールに協賛、11月に京大で開催された日本学術会議URSI-C委員会第21期第1回公開研究会に協賛、12月から1月にかけて開催されるVDECリフレッシュセミナーに協賛、この分野の技術者及び学生が多数集まるイベントに協賛することで、活動のアピールと会員獲得に努めた。

c . CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

2008年3月3日に関西学院大学大阪梅田キャンパスにおいて、ばらつきとSRAM技術動向に関する技術講演会を開催した。IBMのSani Nassif氏、日立製作所の山岡 雅直氏にご講演いただき、大学、産業界から36名の参加者を得て、有益な技術・研究交流を行うことができた。2008年4月4日に京都大学吉田キャンパスで、IEEE CASS President Maciej Ogorzalek先生の講演会を、CASS Shikoku Chapterと共催で開催した。17名の参加者を得て、質の高い講演と議論を行うことができた。2008年8月22日に京都キャンパスプラザにおいて、ばらつきとプロセッサ設計に関する技術講演会を開催した。米国UCLAのLei He先生、富士通の吉田裕司氏にご講演いただき、54名の参加者を集めて活発な議論を行うことができた。最新技術動向に関する技術講演会の開催と、参加者の交流を通じて、活動のアピールと会員の獲得に努めた。

d . APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter

4月17日に電子情報通信学会アンテナ・伝播研究会で、IEEE AP特別講演を、AP-S Kansai Chapter 主催、Japan Chapter 共催で開催した。当日は橋本正弘先生(大阪電気通信大学)に「電磁波の高周波近似、低周波近似そして境界条件」のご講演をいただき、42名の参加者を得て活発な議論を行うことができた。

12月6日には龍谷大学瀬田学舎において、関西アンテナ伝播若手技術交流会を主催した。当日午前のIEEE APS Kansai Chapter Young Engineer Technical Meeting では7名の大学院生による英語口頭発表、午後のIEEE MTT-S Kansai Chapter and IEEE AP-S Kansai Chapter 合同若手技術者交流会では、関西電機メーカー6社の若手技術者が大学院生を対象に企業での実際の研究開発活動の体験を講演(13:30-15:30)し、さ

らに講演者によるパネル討論(15:30-16:00)を行った，その後のポスターセッション(16:00-18:00)では，各大学からの 11 件のポスター展示を前に活発な自由討議がなされた。交流会後の懇親会において IEEE APS Kansai Chapter Young Engineer Technical Meeting での優秀な発表者 2 名に Best Presentation Award が Chair から手渡された。参加者総数は 111 名 (AP 17 名, MTT 23 名, IEEE 7 名, 非会員 72 名) であった。当日の様子と講演内容は次の URL に掲載されている。

<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/aps/>

そのほか 3 月 4 日に千葉大学で開催された iWAT2008(2008 International Workshop on Antenna Technology) に共催し，11 月 7 日に京都大学で開かれた日本学会議 URSI-C 委員会 第 21 期 第 1 回公開研究会に協賛した。

e . COMS (Communications Society) Kansai Chapter

2008 年 5 月 19 日に国際電気通信基礎技術研究所 (京都府精華町) で開催された第 4 回 MWP・THz 合同研究会 (第 2 回マイクロ波・ミリ波フォトニクス (MWP) 研究会，第 1 回テラヘルツ応用システム (THz) 研究会) に協賛した。2008 年 7 月 14 日には、大阪工業大学大阪センター (大阪市北区 毎日インテシオ 3 階) において設立総会を行い、合わせて、設立記念講演会を主催した。講演では、吉田進先生 (京都大学) より「IEEE COMSOC 関西チャプターへの期待」と題して、講演を頂いた。出席者数は若手研究者を中心に 33 名であった。2008 年 12 月 19 日には、Communications Society Kansai Chapter 主催の技術講演会を開催し、林和則先生 (京都大学) より、「代数的トポロジーとセンサーネットワーク被覆問題」と題して、講演を頂いた。最新技術動向に関する技術講演会の開催と、参加者の交流を通じて、活動のアピールと会員の獲得に努めた。

f . CS (Computer Society) Kansai Chapter

1 月 28 日 (月) に、京都大学にて、Chapter 設立記念講演を開催 (IEEE 関西支部との共催) した。設立記念講演では、Prof. Nikil Dutt(UC Irvine)に"Concurrent Exploration of Memory and Communication Architectures for MPSoCs"と題するご講演と、富田眞治教授 (京都大学大学院) に「マイクロプロセッサアーキテクチャの変遷と到達点」と題するご講演を行って頂いた。講演会では、44 名 (IEEE 会員 : 23 名) の参加者を集めて活発な質疑応答が行われた。

12 月 15 日には、Prof. Ting-Chi Wang(National Tsing Hua Univ.)を招いて、「Post-routing Double Via Insertion」に関する技術講演会をメルパルク京都にて主催した。参加者 17 名 (IEEE 会員 : 15 名) を集め、最先端プロセスにおける物理設計技術に関する技術交流の場を持つことができた。

これらの分野の技術講演会を開催することで、関連技術者及び学生を多数集め、活動のアピールと会員獲得に務めた。

技術講演会の詳細は下記の URL に掲載している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

また、本 Chapter の創設から 2 年の任期が満了するため、次期活動にむけて、役員の交代と引継ぎを行った。

g . MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

技術講演会としては、5月29日に龍谷大学の粟井郁雄教授を講師として「メタマテリアル研究の問題点」、また8月28日に兵庫県立大学の太田勲教授を講師として「平面回路法を活用したH面導波管/SIW回路系の解析と設計」と題して開催した。さらに近年、マイクロ波分野のみならず光の分野や材料関連分野の研究者も巻き込んでその広がりを見せているトピックである「メタマテリアル」を昨年に引き続き採り上げてワークショップを開催し、伊藤龍男教授(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)、萩行正憲教授(大阪大学)、真田篤志准教授(山口大学)を招いて技術講演を行うとともに、パネル討論を行った。出席者は47名である。

12月6日には「第1回マイクロ波英語発表会」を開催した。これは学生、および企業入社後数年の若手技術者に対し英語で研究発表する場を与えるもので、14件の発表があり、そのうち1件をBest Presentation Awardとして表彰した。また同日に「若手技術交流会」を開催した。これは企業の若手技術者6名に、大学生・大学院生を対象として企業における研究の実態や魅力について講演していただき、また企業研究所といくつかの大学の研究室によるポスター発表を行って、大学生・大学院生と企業の若手とが交流する場を提供する新しい形式の技術交流会である。昨年開催したところ盛況であったことを受けて本年はAP-S Kansai Chapterと合同で開催したものである。このような会がIEEE入会の契機となることも狙いとしている。さらに2008 International Microwave Symposium, 2008 European Microwave Week および2008 Asia-Pacific Microwave Conferenceの3つの国際学会で発表を行う予定の方を対象として「発表練習とアドバイスの会」をそれぞれ開催した。これらの練習会をきっかけとしてIEEEに入会した方もおられ、本会が会員数増加に具体的に貢献したといえる。

若手の技術者を対象として「関西マイクロ波講習会」を企画・開催した。講師は本チャプターの前委員長、豊橋技術科学大学の大平孝教授で、2日連続の講習会を7月から9月にかけて4回開催した。参加者は40名を超えるが一回あたりの参加者は10名程度と少人数に絞り、演習時間を豊富にとって、講義を聴くだけではない実習型の講習会とした。

昨年、関西におけるマイクロ波分野の主要な企業、および大学からそれぞれ委員を募り「技術委員会(Technical Committee)」を組織した。本年はさらにGOLD Member, Student Memberによる「若手技術委員会」を組織した。先述の英語発表会の開催はこの若手技術委員の貢献によるところが大きい。将来を担う若い技術者にこのような学会のイベント開催に携わってもらうことは学会の維持・拡大にとって重要であると考えている。

h . LEOS (Lasers and Electro-Optics) Kansai Chapter

3月4日には、京大にて1st International Symposium on Photonics and Electronics Science and Engineering (京大21世紀COE共催)を開催し、"Quantum Dots and Nanowires for Optoelectronic Device Applications" (Prof. Chennupati Jagadish (Australian National University))、"Recent Progress of Photonic Crystals" (Prof. Susumu Noda (Kyoto University)) 他、12件をご講演頂いた。また、10月31日には、若手研究者を対象としたGlobal COE on Photonics and Electronics Science and Engineering - The 1st Young Researchers International Symposium - を京大にて開催し、"Enhancement of light emission from lower dimensional semiconductors using

metallic nanostructures" (Prof. Arup Neogi (University of North Texas, USA))、"Basics and applications of Kelvin probe force microscopy" (Prof. Thilo Glatzel (University of Basel, Switzerland)) 他 16 件をご講演頂いた。参加者は 63 名(3 月 4 日)、150 名(10 月 31 日)とともに盛況であった。

さらに、4 月 4 日に"Continuum models for self-organization of micro- and nano-particles and dynamical models for biological curves" (Prof. Vakhtang Putkaradze (Colorado State University, USA))、9 月 18 日に"Semiconductor Microtubes acting as Optical Resonators" (Dr. Tobias Kipp (Institute of Applied Physics, University of Hamburg, Germany))、5 月 23 日に"Fluctuational phenomena in micromechanical systems: from Casimir effect to activated switching" (Prof. Ho Bun Chan (University of Florida, USA))、7 月 1 日に"Ultra-small footprint photonic crystal lasers with organic gain material" (Dr. Rainer F. Mahrt (IBM Research Lab in Rueschlikon, Switzerland))、7 月 16 日に"(Al,In)GaN laser diodes in spectral, spatial, and time domain: near-field measurements and basic simulations" (Prof. Ulrich T. Schwarz (Institute for Experimental and Applied Physics, University of Regensburg, Germany))、8 月 9 日に"Free-space optical principles in integrated nanophotonic systems" Prof. Ulrich T. Schwarz Dr. Andrew Kirk (Department of Electrical and Computer Engineering, McGill University, Canada)、8 月 19 日に"Breakpoint Phenomenon and Creation of Longitudinal Plasma Waves in Layered Superconductors" (Prof. Yu. M. Shukrinov (BLTP, JINR, Dubna))、9 月 24 日に"RF and microwave MEMS activities at KTH" (Dr. Joachim Oberhammer (KTH Royal Institute of Technology, Sweden))、10 月 1 日に"Fast Switching Power Semiconductor Devices - An Enabling Technology for Energy Efficiency and System Integration-" (Dr. Leo Lorenz (Infineon Technologies, Germany))、10 月 22 日に"Semiconductor Cavity Quantum Electrodynamics With Single Quantum Dots" (Dr. Sven Hofling (Technische Physik, Wurzburg University, Germany))、10 月 29 日に"Coupled Overdamped Bistable Systems and Applications" (Dr. Visarath In (Space and Naval Warfare Systems Center San Diego, USA))、の計 11 回の各講演会(いずれも京大 21 世紀 COE 共催)を京大にて開催した。いずれも参加者が 50 名を越える盛況な講演会となった。

この他、1 月 28-29 日に大阪電通大で開催された電子情報通信学会 LQE/OPE/EMT/PN 合同研究会に共催し、田中氏(京大)に「フォトリック結晶共振器の Q 値の動的制御」をご講演頂いたほか、11 月 27 日~28 日の神戸大学主催の Workshop on Information, Nano and Photonics Technology 2008 (WINPTech 2008)に協賛した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/leos/index.html>

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

2007 年 12 月に新たに設立された当 Chapter は、2008 年が本格的な活動の一年目であった。2 月に開催された関西 Section 総会を経て直ちに、Chair、Vice Chair、Secretary/Treasurer の 3 名からなる Officer 陣の体制を整えた。4 月 22 日には Chapter 活動の広報を目的とする WEB ページ(*)を開設した。5 月 31 日には、当 Chapter 初の行事として、日本音響学会音楽音響研究会との共催により、大阪音楽大学 水谷一郎教授による講演会(「作曲指導者からみた音楽ソフトの功罪」)並びに、自動ピアノの演奏精度に関するデモンストレーションを題材とした討論会を開催し、約 50 名の

参加があった。さらに10月31日には、Chapter 設立記念行事として、設立総会、並びに、NHK 放送技術研究所 岩館祐一氏を招いての記念講演会（「3次元映像処理の研究とその放送応用」）を開催し、約70名の参加があった。なお、これら2回の行事においては、IEEE 非会員の参加者も広く受け入れ、IEEE、および Signal Processing Society の広報/宣伝にも注力することで新規会員の勧誘に努めた。

(*) <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sps/>

6. 協賛会議

- ・ IMFEDK(International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai)
日時：2008年5月22日(木)～23日(金)
場所：大阪大学中之島センター
- ・ 地理空間情報活用推進基本法と電子国土 Web システム研修会
日時：2008年6月～10月(5回シリーズ(1回/月、6月～10月))
場所：奈良県文化会館、奈良大学、奈良市北部会館

7. Region 10 Meeting

2008年2月2日(土)～3日(日)の日程でインドのグジャラートにて開催された Region 10 Meeting には、関西支部より尾上 SAC Chair、白川 Region 10 Industry Liaison Coordinator が出席した。R10 の活動報告と活動計画、支部運営に関する Tutorial、Training Session などが中心であった。

8. Section Congress 2008

2008年9月19日(金)～22日(月)の日程でカナダのケベックシティにて開催された Section Congress 2008 には、関西支部より尾上 SAC Chair、白川 Region 10 Industry Liaison Coordinator、山本 Region 10 Section Chapter Support & Regional Chapter Coordinator が出席した。Section Officers の役目から、Newsletter、e-mail の効果的な使用方法にいたるまで Section 活動・運営全般に関するレクチャーが行われた。また、Region 10 Meeting が本会議の初日の午前に開催された。例年通り Section 活動に関するトレーニングのセッションが設けられた。

9. WIE 活動

主として MDC と SAC がサポートをしながら、特に各大学の WIE 活動を組織化/支援する役割を関西支部が果たしていく方針である。具体的な取り組みについては、講演会や活動支援など、関係者と現在調整中である。

10. 情報の発信

(1) 関西支部 Web ページ

Japan Council のサーバーをお借りして設置した下記ホームページでタイムリーに情報発信した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

(2) 電子メールの利用

技術講演会、協賛会議等の案内をタイムリーに、電子メール・関西支部ホームページを用いて広く公告するなど情報発信に努めた。

(3) News Letter

GOLD 賞、学生研究奨励賞の募集をはじめ、関西支部に関する情報を News Letter 形式で 4 月と 9 月に提供した。

関西支部会員数

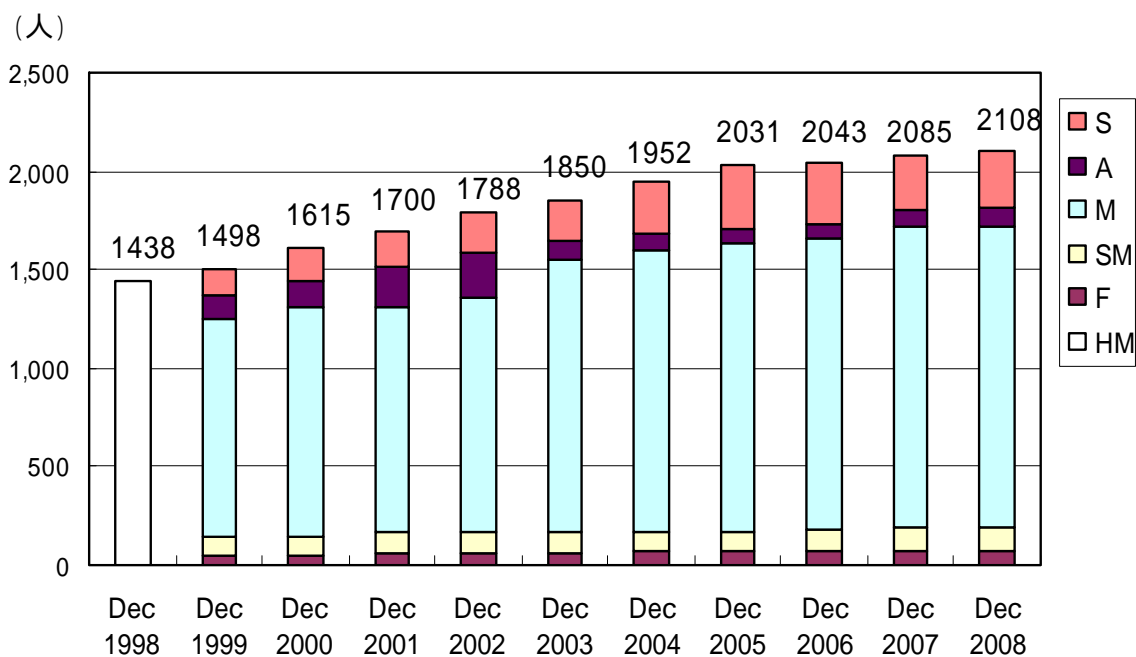
1. グレード別会員数

2008.12 現在

グレード	Grade Code	会員数
Honorary Member	H	0
Life Fellow	LF	29
Fellow	F	49
Life Senior Member	LS	7
Senior Member	SM	102
Pending Senior Member	PS	0
Life Member	LM	43
Member	M	1,490
Pending Member	PM	0
Life Associate	LA	0
Associate	AM	95
Graduate Student Member	GSM	179
Student	StM	114
Total		2,108
Affiliate of an IEEE Society	AF	138

上記集計では、Active 会員のみをカウントし、かつ、他のセクションへの移籍者等は含まない。

2008年12月においてAR(1年未満滞納者)は246名である。



2. ソサイエティ別会員数

2008.12 現在

ソサイエティ	Code	会員数
Signal Processing	SP-01	149
Broadcast Technology	BT-02	10
Antennas and Propagation	AP-03	60
Circuits and Systems	CAS-04	137
Nuclear and Plasma Science	NPS-05	25
Vehicular Technology	VT-06	40
Reliability	R-07	0
Consumer Electronics	CE-08	42
Instrumentation and Measurement	IM-09	22
Aerospace and Electronic Systems	AES-10	14
Computational Intelligence	CIS-11	90
Information Theory	IT-12	55
Industrial Electronics	IE-13	36
Engineering Management	EM-14	16
Electron Devices	ED-15	213
Computer	C-16	520
Microwave Theory and Techniques	MTT-17	143
Engineering in Medicine and Biology	EMB-18	73
Communications	COM-19	239
Ultrasonics, Ferroelectronics and Frequency Control	UFFC-20	28
Components, Packaging and Manufacturing Technology	CPMT-21	24
Oceanic Engineering	OE-22	10
Control Systems	CS-23	94
Robotics and Automation	RA-24	102
Education	E-25	13
Professional Communication	PC-26	1
Electromagnetic Compatibility	EMC-27	23
System, Man and Cybernetics	SMC-28	97
Geoscience and Remote Sensing	GRS-29	14
Social Implications of Technology	SIT-30	6
Power Engineering	PE-31	41
Dielectrics and Electrical Insulation	DEI-32	11
Magnetics	MAG-33	38
Industry Applications	IA-34	37
Power Electronics	PEL-35	42
Lasers and Electro-Optics	LEO-36	139
Solid-State Circuits	SSC-37	167
Intelligent Transportation Systems	ITSS-38	19
Product Safety Engineering	PSE-43	4
Total		2,794

2009 年 活動計画

1 . 総会

2009 年 2 月 24 日 (火) 15:00 ~ 17:30 の予定で、2009 年定例総会を実施する。

2 . 技術講演会

Technical Program Committee の企画により、講演会を実施する。

3 . 理事会

第 1 回理事会 1 月 20 日 京都市リサーチパーク

・ 2009 年活動計画 ・ 2009 年各 Committee の活動計画

第 2 回理事会 2 月 24 日 京大会館

・ 2009 年総会について

2009 年中に、さらに数回の理事会を開催する予定である。

4 . 関西支部 GOLD Award

2008 年に引き続き、Award 受賞候補者を公募し、該当者を表彰する。

5 . 関西支部学生研究奨励賞

2008 年に引き続き、学生研究奨励賞受賞候補者を公募し、該当者を表彰する。

6 . 関西支部メダル

2008 年に引き続き、関西支部内の新 Senior Member に対して関西支部メダルを授与する。また、IEEE 活動に貢献があった方々に、理事会承認に基づいて関西支部メダルを授与する。

7 . WIE 活動

講演会開催、イベント協賛・後援等の具体的な取り組みを開始し、関西支部内に WIE (Women in Engineering) Affinity Group の設立を目指す。

8 . 各 Committee 活動計画

a . Membership Development Committee

- (1) 2009 年も新 Senior Member を増やすことを目標にし、前年度と同様に会員の増加に結びつける。
- (2) Senior Member に昇格するときに必要な申請書に関して、現在は企業の方の場合の記入例を公開しているが、大学関係者の記入例も作成し、さらに Senior Member に昇格しやすい環境を整える。
- (3) 前年度と同様に Student Activity Committee と連携を深め、学生会員の増加につなげる。

b . Nominations Committee

- (1) 2008 年と同様に、Membership Development Committee と共同して Senior

Member だけではなく、正員、学生員の拡大をも図る。

- (2) Fellow 候補者をできるだけ多く Nominate する。Fellow Nomination に関して、2008 年と同一手順で実行の予定。併せて、一般 Member に対し、Senior Member への upgrade を勧める。

c. Student Activities Committee

(1) Student Branch の設立

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、Student Branch の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学 Branch からの支援で、神戸大学、関西大学、大阪府立大学他を対象に Student Branch の設立を目指す。

(2) 学生会員活動の活発化

学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 5 大学 Student Branch の協力により、Student Branch が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 5 大学 Student Branch を中心に、交流会を引き続き開催し、Student Branch 間の交流を深める。

(3) 表彰および研究奨励

2004 年から開始した IEEE 関西支部学生研究奨励賞を(Awards Committee と共同する形で)継続して企画し、優れた英文論文を発表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。

(4) 他支部の学生活動との連携

Japan Council 主催の Student Branch リーダーシップトレーニングワークショップへの Student Branch 役員派遣など、国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

(5) 関西支部配下の Student Branch の 2009 年の体制は以下の通りである。

(学年は 2009 年 4 月時点の予定)

1. 大阪大学

Counselor:	尾上 孝雄	(大阪大学 教授)
Mentor:	岡田 圭介	((株)ルネサステクノロジ)
Chair:	天木 健彦	(修士 2 回生)
Vice Chair:	松下 裕丈	(修士 1 回生)
Treasurer:	岡田 雅司	(修士 2 回生)
Secretary:	高井 康充	(修士 1 回生)

Website URL: <http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/ieee/>

2 . 京都大学

Counselor:	小野寺 秀俊	(京都大学 教授)
Mentor:	近村 啓史	(パナソニック (株))
Chair:	今川 隆司	(修士 2 回生)
Vice Chair:	門田 亮二	(修士 1 回生)
Treasurer:	寺岡 秀人	(修士 1 回生)
Secretary:	松木 優治	(修士 1 回生)

Website URL: <http://ieeekuee.kyoto-u.ac.jp/>

3 . 立命館大学

Counselor:	山崎 勝弘	(立命館大学 教授)
Mentor:	川上 善之 多田 章	(パナソニック (株)) ((株)ルネサステクノロジ)
Chair:	大亦 真一	(修士 2 回生)
Vice Chair:	宮内 崇旭	(修士 2 回生)
Treasurer:	飯田 雄介	(修士 2 回生)
Secretary:	安部 厚志	(修士 2 回生)

Website URL: <http://www.ieee.se.ritsumeai.ac.jp/>

4 . 奈良先端科学技術大学院大学

Counselor:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学 教授)
Mentor:	阪井 誠	(SRA 先端技術研究所)
Chair:	まつ本 真佑	(博士 2 回生)
Vice Chair:	亀井 靖高	(博士 3 回生)
Treasurer:	木村 昌樹	(修士 2 回生)
Secretary:	奥村 哲也	(修士 2 回生)

Website URL: http://se.naist.jp/sb/index_ja.html

5 . 兵庫県立大学

Counselor:	畑 豊	(兵庫県立大学 教授)
Mentor:	中嶋 宏	(オムロン (株))
Chair:	山本 健太	(修士 2 回生)
Vice Chair:	彭 清貴	(修士 1 回生)
Treasurer:	山口 弘祐	(修士 1 回生)
Secretary:	平松 元太	(修士 2 回生)

Website URL: <http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/IEEEStudent/index.html>

d . Technical Program Committee

2008 年と同様、講演会の開催を主たる活動とする。2009 年も 5 回以上の企画・開催を目指す。従来から継続している、大阪・京都・神戸地区での講演会の開催、会員からの講演会の提案受付に加え、シリーズ講演会の開催などにも取り組む。

e . Awards Committee

2008年に引き続き、若手会員増強施策としての「IEEE Kansai Section GOLD Award」の募集・選定作業、ならびに学生会員増強施策としての「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の選定作業を継続して行う。また、中長期的視野で学生会員や若手会員のさらなる増強をねらい、予算措置を視野に入れながら新企画について検討を行う。

f . Chapter Operations Committee

関西支部内の Chapter で活動状況について横断的に情報共有を行い、各 Chapter の活動をさらに活性化させる。具体的には、COC 委員会における各 Chapter 活動報告による情報共有、Distinguished Lecturer 制度の説明、Japan Council の支部 Chapter 支援費の説明などを行う。さらに、IEEE 本部へ行う報告や Chapter 維持条件の説明を通して、定常活動の維持について各 Chapter に再確認する。また、今後関西支部で新設を予定する Chapter に対し、その新設に必要な情報の提供、既存 Chapter との情報交換などを通じ、新設に向けた支援を展開する。

9 . Kansai Chapter 活動計画

a . EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

2009年も前年度に引き続き、国際会議、技術講演会を中心に積極的に活動を展開する。関西発の国際会議である”International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK)”は、5月14-15日に関西大学100周年記念館において主催予定であり、定例の関西コロキウム電子デバイスワークショップも10月に開催の予定である。デバイスの研究開発動向を知る上で重要な国際学会であるIEDMの報告会は2009年1月30日に関西大学100周年記念館にて開催すると共に、Distinguished Lecturer を招いての技術講演会 (DL Meeting) も開催する予定にしている。

この他、関西地区で開催される各種会議・研究会にも積極的に協賛し、引き続き会員獲得にも努めていく計画である。

b . SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

2009年も技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。

7月頃と11月頃に技術講演会を開催し、国内外より著名なVLSI設計関連の技術者を招く予定である。また、関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める計画である。

c . CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

2009年も2008年と同様に、技術講演会を中心に活動し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。著名な国外研究者が集まる国際会議やプログラム委員会の開催に合わせて、講演会を開催することを検討している。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。

d . APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter

昨年に引き続き(1)関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および(2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動することを予定している。具体的には、2009年4月9日開催の電子情報通信学会アンテナ伝播研究会においてIEEE AP-S Kansai Chapter主催の特別講演を予定している。また12月にはアンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ『無線 IC タグ用アンテナの基礎』の開催を主催することを予定している。さらに AP-S 会員の拠点として、会員のプラスになる活動や行事を積極的に実施し、若手会員獲得につとめるとともに関連 Chapter や学会と連携をはかる計画である。

e . COMS (Communications Society) Kansai Chapter

技術講演会を中心に活動を展開し、学生および若手研究者を主な対象として質の高い講演および技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。具体的には、7月および11月頃に技術講演会を開催し、通信関連の若手研究者を中心に講演を頂く予定である。また、引き続き、関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める。

f . CS (Computer Society) Kansai Chapter

2009年も技術講演会を中心に活動し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。

著名な国外研究者が集まる学会の開催に合わせて、講演会を開催することを検討している。

また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める計画である。

g . MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

2009年も技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動することを予定している。さらにマイクロ波講習会も、昨年と同様に基礎講座とするか、昨年の発展形となる応用講座とするかを検討した上で開催を企画する。Fellow および Senior Member への昇格候補者支援を引き続き行う。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催/協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。4月に開催される2009 Korea Japan Microwave Conference を共催することは決定している。

h . LEOS (Lasers and Electro-Optics) Kansai Chapter

2009年も、6回以上の技術講演会の企画・開催を目指す。既に、1月29日~30日には電子情報通信学会 LQE/OPE/EMT/PN 合同研究会(京都工繊大)での岡本氏(京大)および中田氏(NEC)によるIEEE LEOS Annual Meeting 2008 報告会、また3月13日には京大 Global COE シンポジウムでの Dr. Weng Chow (Sandia National Lab., USA) によるIEEE Distinguished Lecturer 講演会が決定している。

i . SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

2009年も講演会の開催を中心として活動を展開し、会員の学識、知見の向上、並び

に非会員に対する積極的な入会勧誘に努める。他学会、研究会等とも積極的に連携し、共催、協賛での行事開催に取り組む。

また、2009年のOfficer陣として、映像系、音系の分野別にVice Chairを配する体制を採り、Signal Processing Societyのカバーする広い技術分野を考慮した活動を目指す。

10. 協賛会議（2009年1月20日現在予定分）

- ・ 2009 International Symposium on Electromagnetic Compatibility(EMC'09)
(2009年環境電磁工学国際シンポジウム)
日時：2009年4月13日(月)～4月17日(金)
場所：国立京都国際会館
- ・ IMFEDK(International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai)
日時：2009年5月14日(木)～15日(金)
場所：関西大学100周年記念会館

2008年 会計報告

収入の部	予算案	実績	(単位：円)	
IEEE Entity 間勘定	5,256,970	5,309,132		
・ Section Rebate 2008 (IEEE 本部より)	1,264,489	1,215,449	\$11,568@105.07 円/\$	6/6
・ Section Assessment 2008 前期 (同上)	3,954,531	3,943,042	\$38,230@103.14 円/\$	4/30
・ Section Assessment 2008 後期 (同上)	上記に含む	117,859	\$1167.5@100.95 円/\$	10/21
・ MDC Subsidy/Grants for Student Branch (同上)	31,350	32,782	\$312@105.07 円/\$	6/6
・ The Nominate Senior Member Initiative (同上)	6,600	0		
その他	985,249	1,039,258		
・ Section 支援金 (GOLD Award 楯代)	120,000	120,000	JC より (2007 申請分)	1/31
・ Section 支援金 (学生研究奨励賞代)	416,000	416,000	JC より (2007 申請分)	1/31
・ Section 支援金 (関西支部メダル代補助)	333,680	333,680	JC より (2007 申請分)	1/31
・ Section 支援金 (Student Branch 支援)	50,000	0		
・ Milestone Plaque 立替代等	65,569	65,569	阪大より	1/31
・ 関西支部メダル頒布	0	104,009	5名、6個分 (送付費用込)	12/1,2,4,9
利息	0	4,974		2/18,8/18
2007年からの繰越金	1,891,147	1,891,147		
合計	8,133,366	8,244,511		

Rebate 内訳 { \$2,000 + \$4× (Fellow, Senior 会員数 = 190) + \$3× (Member, Associate, Student 会員数 = 1,909) + \$1.5× (Affiliate 会員数 = 162) + \$200× (Chapter 数 = 7) } × 1.10 + \$225 (Chapter Bonus) Chapter Bonus は SCS,MTTS,LEOS 分

支出の部	予算案	実績	(単位：円)	
IEEE Entity 間勘定	4,130,531	4,241,304		
・ Japan Council 拠出金	3,954,531	4,057,666		7/18
・ Chapter Rebate	176,000	170,738	(\$200×7+\$75×3(SSC, MTT,LEO) @105.07 円/\$)	6/19
・ JC 支援費余剰金返却	0	12,900	GOLD Award 楯代差額	5/27
会合・AWARD 費	1,864,680	1,933,571		
・ 総会費	200,000	156,215	会場費, 資料代など	2/28
・ 講演会	90,000	120,000	第50回3名、第51回1名	9/8,10/31
・ 理事会費	230,000	265,798	会場代, 飲食代	1/24,2/28,4/28,7/8,9/16,12/22
・ Committee 会合費	400,000	388,710	MDC/SAC2 回	6/30,12/19
・ GOLD Award 費	125,000	107,100	楯代	2/28
・ 学生研究奨励費	436,000	409,980	賞金,交通費(賞状代は09年払)	2/28
・ 支部メダル費	333,680	333,440	造幣局	1/10
・ Student Branch 支援費	50,000	49,485	立命館大 SB	10/10
・ IEEE Milestones 関連費用	0	102,843	History Center 来訪	5/16,17
事務経費	35,000	204,895		
・ 事務用品費	4,000	595	封筒	
・ 旅費	30,000	202,160	JC 理事会、Section Congress	8/25,9/19-22
・ 通信費	1,000	2,140	郵送費	
雑費	40,000	21,611	為替手数料, 振込手数料等	
2009年への繰越	2,063,155	1,843,130		
合計	8,133,366	8,244,511		

2009 年 予算案

収入の部

(単位：円)

IEEE Entity 間勘定	4,631,497	
・ Section Rebate (IEEE 本部より)	1,059,282	\$11769.8 (2008.12 会員数より推定)
・ Section Assessment 2009 前期 (同上)	3,440,700	\$38,230 (2008 年実績)
・ Section Assessment 2009 後期 (同上)	105,075	\$1,167.5 (2008 年実績)
・ MDC Subsidy/Grants for Student Branch (同上)	26,370	\$293.00 (2008.12 会員数より推定)
その他	880,890	
・ Section 支援金 (GOLD Award 楯代)	107,100	JC より (2008 申請分) (2 個)
・ Section 支援金 (学生研究奨励賞代)	320,000	JC より (2008 申請分) (10 名)
・ Section 支援金 (関西支部メダル代補助)	168,790	JC より (2008 申請分) (10 個)
・ Section 支援金 (WIE)	100,000	JC より (講演会等)
・ Section 支援金 (Student Branch 支援費)	50,000	
・ Section Congress2008 支援金	135,000	R10 より (\$ 1500 , 2008 年分)
2008 年からの繰越金	1,843,130	
合計	7,355,447	

90 円/\$として計算

Rebate 内訳 { \$2,000 + \$4× (Fellow, Senior 会員数 = 187) + \$3× (Member, Associate, Student 会員数 = 1,921) + \$1.5× (Affiliate 会員数 = 138) + \$200× (Chapter 数 = 9) } × 1.10 + \$200 (Section Bonus) 会員数は、2008.12 月現在

支出の部

(単位：円)

IEEE Entity 間勘定	3,707,775	
・ Japan Council 拠出金	3,545,775	\$39,397.5 (2008 年実績)
・ Chapter Rebate	162,000	(\$200×9)
会合・AWARD 費	1,860,680	
・ 総会費	200,000	会場費, 資料代など
・ 講演会	90,000	3 名分
・ 理事会費	230,000	会場代、飲食代
・ Committee 会合費	400,000	MDC/SAC2 回、COC
・ GOLD Award 費	107,100	楯代, 交通費
・ 学生研究奨励費	346,000	賞金, 交通費, 賞状代
・ 支部メダル費	337,580	造幣局
・ Student Branch 支援費	50,000	立命館大学 English Presentation Competition
・ WIE 支援費	100,000	講演会等
事務経費	35,000	
・ 事務用品費	4,000	ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ等
・ 旅費	30,000	
・ 通信費	1,000	郵送費、宅急便等
雑費	40,000	為替手数料, 振込手数料など
2010 年への繰越	1,711,992	
合計	7,355,447	

90 円/\$として計算

受賞者

IEEE Kansai Section GOLD Award受賞者

計 2 名 (アルファベット順、敬称略)

池田 侑一郎	(兵庫県立大学)
藤本 義久	(シャープ)

IEEE Kansai Section 学生研究奨励賞受賞者

計 12 名 (アルファベット順、敬称略)

有木 由香	(奈良先端科学技術大学院大学)
榎並 孝司	(大阪大学)
藤原 英弘	(神戸大学)
ハム ヒョンジュ	(大阪大学)
小泉 佑揮	(大阪大学)
牧川 文紀	(大阪大学)
西出 俊	(京都大学)
岡本 清美	(関西大学)
大蔵 君治	(奈良先端科学技術大学院大学)
Livieri Simone	(大阪大学)
竹内 啓悟	(京都大学)
手島 邦彦	(京都大学)

IEEE Kansai Section メダル受賞者

計 4 名 (アルファベット順、敬称略)

河原 達也	(京都大学)
西尾 章治郎	(大阪大学)
寺西 信一	(パナソニック)
Oscar Vanegas	(パナソニック電工)

IEEE Kansai Section 新Fellow

計 2 名 (アルファベット順、敬称略)

門田 道雄	(村田製作所)
田村 進一	(大阪大学)

Bylaws

IEEE KANSAI SECTION BYLAWS

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Regional Activities Board (RAB) Bylaws and Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

ARTICLE I --- Name and Territory

Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by RAB, includes the following:

Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN

(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive.)

ARTICLE II --- Officers

Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary & Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

ARTICLE III --- Standing Committee

Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

Section3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee end-of-term date of the Committee Chairs'.

Section4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

ARTICLE IV --- Management

Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

- Standing Committee Chairs
- representatives of Chapters,
- such other members appointed by the Section Executive Committee,
- and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of an three members of the Section Executive Committee.

Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers

Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section, shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30
Close nominations by petition:	by October 31
Hold election:	by November 30

Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

ARTICLE VI --- Business Meeting

Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

ARTICLE VII --- Finances

Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive Committee.

ARTICLE VIII --- Amendments

Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, RAB Bylaws and RAB Operations Manual.

2009 年 IEEE 関西支部連絡先

〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台 3 丁目 4 番地
パナソニック株式会社 先端技術研究所内
TEL : 0774-98-2509 FAX : 0774-98-2587
e-mail : sec-kansai@ieee-jp.org
Web URL : <http://ewh.ieee.org/r10/kansai/>
<http://www.ieee-kansai.org/>